

我々リハビリ専門職が果たす役割は大きいはずです。

さて、東日本大震災において、日本リハ医学会を含めたリハ関連の10団体は、合同事務所を置き、窓口を一本化して被災地のリハニーズと支援に行く人材とをマッチングさせて、3か所の福祉避難所で5か月間支援活動を行いました。同団体は、その活動後、大規模災害リハ支援関連団体協議会と名前を

あらため、大規模災害リハ対応マニュアル(医歯薬出版)の刊行と、全国災害リハコーディネーター研修会の開催を行いました。

私は、平成25年3月に行われた同研修会に参加し、東日本大震災での活動の実際、災害フェーズとリハの対応、関連法規、コーディネーションのありかた、などを学習しました。そしてその後は、各地域で普及に努めるようにとの、take home messageをいただきました。

大阪から受講した6名は、この灯を消してはいけないと思い、1年以内に大阪で災害リハについての研修会を開催することを決め、研修会のあり方について話し合いました。その結果、「南海トラフ大地震で大阪が壊滅的に被災したときのことを検討する。自ら被災したものが立ち上がり(自助)、避難所を多職種と



運営することができ(共助)、全国からのリハ支援を受ける体制を作る(公助)。そのために必要な知識とスキルを身に着けよう」ということをテーマに、平成25年11月17日に、6名の講師、48名の受講者(PT32名、OT8名、ST8名)で大阪府理学療法士会の教育研修会として開催しました。

研修会は8時間で、講義の後、発災直後の混沌とした状況から、福祉避難所へ災害要援護者を移送し、そこへリハ支援チームを派遣するフェーズまで、多職種連携や支援時のポイントをワークショップ中心に学んで頂きました。この研修会の受講者は地域でリハ支援コーディネーターとして活動してもらえと期待し、引き続き開催する予定です。

1) http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taisaku_wg/pdf/20130318_shiryo2_3.pdf

2) http://www.reconstruction.go.jp/topics/20120821_shinsaikanrenshihoukoku.pdf



新専門医に聞く

今回新しくリハ専門医になられた先生に抱負を語っていただきました。専門領域がそれぞれ異なりますが、リハ医学にける情熱は大きく、これからの地方会を引っ張る新進気鋭の方々です。近畿地方会へのご支援を期待しております。(掲載順不同)



糸井 久幸 西宮協立リハビリテーション病院

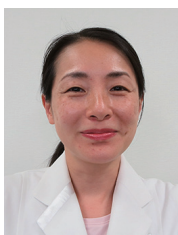


西宮協立リハビリテーション病院で働く糸井と申します。当院に来てはや8年の月日が流れましたが、今年漸く症例も集まってリハビリ専門医試験を受験することが出来ました。脳外科、神経内科出身でも整形外科出身でもない自分にとってかなりの労力を要しました。この年になると記憶力が衰退しており、尚更でした。勉強を通じて今まで見過ごしてきた些細な点も目に留まるようになり、新鮮な気持ちで患者様達と接することが出来るようになった気がします。これは一番の収穫のような気がします。

それから今だから言えますが、口頭試験の日にスーツ姿でなかったのは、見渡す限り試験官の先生方を含めて自分だけでした。とても浮いており、やってしまった感一杯で一瞬怯んでしまいました。こんな自分ですが、リハ医としてもやって行こうと思いますので、皆様のご指導の程宜しく願い申し上げます。



野田 直子 関西リハビリテーション病院



この度、リハビリテーション専門医を取得させていただきました関西リハビリテーション病院 野田直子と申します。平成10年卒業後、神経内科にて研修を行い、脳血管障害、変性疾患などの疾患を経験させていただきました。神経内科病棟やその後勤務した重症身体障害児施設で薬物治療では改善しない症例に悪戦苦闘しながらリハビリテーションの重要性に痛感させられました。専門医試験に合格し、ようやくリハビリテーション医療の第一歩を踏み出したと身の引き締まる思いです。これからも、諸先生方にご指導いただきながら研鑽を積んでいきたいと思っております。

今後とも、相変わらずのご鞭撻を賜りますよう何卒宜しく願い申し上げます。

**徳永 大作 京都府立心身障害者福祉センター附属リハビリテーション病院**

このたび、新たに日本リハビリテーション学会専門医としてお認めいただきました、徳永大作と申します。1986年、京都府立医大の卒業で、現在は京都府立心身障害者福祉センター附属リハビリテーション病院的の副院長と、京都府立医科大学大学院医学研究科 運動器機能再生外科学(整形外科)の准教授を併任しております。当リハビリテーション病院は、変形性関節症や関節リウマチなどの整形外科的疾患に対する保存療法、手術療法および、脳梗塞や高次脳機能障害などに対する専門的な治療を中心に行っています。今後は、日本リウマチ学会指導医としての役割と、リハ専門医としての役割を十分に發揮し、ますます多くの患者さんの治療に役立てて行きたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

**沖塩 尚孝 関西医科大学リハビリテーション科**

2013年4月に関西医科大学整形外科教室リハビリテーション科医師として大阪に参りました。現在、同大学付属の枚方病院にて長谷公隆教授の下でリハビリ診療に従事し、滝井病院には菅俊光先生と新入局員一人の4人で、整形外科教室の中の組織として頑張っております。両先生の指導により専門医を取得いたしました。大阪でのリハビリ診療では、「リハビリ(医)ってそんなこともするのか!」、「困ったからリハビリ科に相談してみよう」等、手応えがあり、やりがいを感じております。学生実習や初期研修医の教育にも力をいれ、リハビリ科に興味をもつ方が増えつつあります。リハ科医を増やし京阪沿線のリハビリ診療の活性化に貢献して参りたいと存じます。皆様には日々の診療や地方会等でお世話になることもあるかと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

**西田 篤司 東大阪生協病院**

初めまして。この度リハビリテーション科専門医の一員として認定していただきました、西田篤司(にしだあつし)と申します。私は平成9年に山口大学を卒業し、外科医として勤務するうちに多忙さに追われ「これでいいのだろうか」と考えるようになり、リハビリテーションの世界に足を踏み込みました。

当初はなかなか何をしたいものか分かりませんでした。徐々にリハビリ医学の奥深さ、全人的医療というものの奥深さに気付くようになり、深く学ぶようにもなりました。これからは地域で求められるリハ医療とは何か?ということを追求しながら地域医療に貢献していきたいと考えております。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

**前田 香 地域医療機能推進機構 大阪病院 リハビリテーション科**

このたびリハビリテーション科専門医の認定をいただきました前田と申します。平成7年に大阪大学整形外科医局に入局し、現在は地域医療機能推進機構大阪病院リハビリテーション科に勤務しております。急性期病院でのリハビリはまさに“縁の下での力持ち”、決して花形ではないですが、すべての科に介入することで急性期にリハビリは欠かせないものであるという認識をもっていただけになりました。最近では癌終末期のリハビリテーションも積極的に実施し、患者さんのQOLの改善に少しでも役立てようスタッフ一同努力しております。

リハ医としてのスタートラインにやっと立てたと身の引き締まる思いです。これまでご指導いただきました先生方に感謝し、また微力ではありますが、リハ医療の発展に貢献できるよう努力していく所存です。今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

**松田 敦子**

このたびリハビリテーション医学会の専門医認定を受けました松田 敦子と言います。10年間脳神経外科医として働いているなかで、せっかく命が助かって退院後の生活に不安をいだいていらっしゃる患者さんを診る機会があり、リハビリに興味を抱くようになりました。

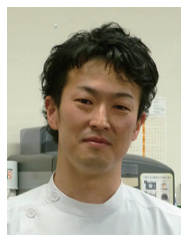
この度の試験では、研修を受けていた兵庫県立リハビリテーション中央病院の先生方だけではなく、リハ学会の先生方にもご指導いただき大変感謝しております。

なんとか合格いたしましたものの、「リハビリテーション科専門医」と呼んでいただくにはまだまだ知識、技術が不足しており後ろめたい気持ちがあります。

今後とも患者さん、特に脳神経外科で手術を受けた方々が、「手術を受けてよかった、命が助かって良かった」と思ってもらえるようリハ医として携わっていけたらと考えております。今後ともご指導をよろしくお願い申し上げます。



遠山 将吾 独立行政法人地域医療機能推進機構 神戸中央病院



私は初期研修をリハビリテーション科ではなく整形外科として研修を開始し、専攻をリウマチ学、手外科学と進めてきました。手術治療も行いますが、リウマチ性疾患のリハビリテーションを含む保存療法に触れるにつれ、投薬ばかりがクローズアップされる現在のリウマチ診療について疑問を持つとともに、装具や関節保護のリハビリテーションの重要性を認識するに至りました。また脳卒中リハビリテーション専門看護師が病棟での戦友におり、脳卒中後のリハビリテーションについて様々な問題点に触れることができました。こうして専門医を志望するようになりました。神経内科疾患や脳卒中、小児発達などまだまだ力及ばずの範囲も多いですが、関節リウマチのリハビリを通して、リハビリテーション学と患者により良いものを少しでも提供したいと自分自身を鼓舞しております。若輩者ですがなにとぞご指導、ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。



富岡 正雄 大阪医科大学総合医学講座 リハビリテーション医学教室



このたび、日本リハ医学会専門医に仲間入りさせていただきました富岡です。私は昭和63年宮崎医科大学を卒業後、神戸大学整形外科に入局し関連病院で研修をつみ、兵庫県災害医療センターでは7年間救急医および外傷整形外科医として勤務し、災害医療についてもかかわっていました。同センターでは、リハビリができず、関節拘縮や筋委縮が生じ、車いす移乗などができずに困っていたところ、整形外科時代の指導医であった佐浦教授に、訪問理学療法士を紹介していただいたいきさつがあります。その後、佐浦教授にお誘いいただき、リハビリ科でお世話になることにしました。平成22年から愛仁会リハビリテーション病院に、平成25年から大阪医大に勤務しています。これまで経験してきた急性期の病態や、災害医療について、リハビリの観点から見直しながら、新しいことを学んでいます。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



服部 憲明 森之宮病院

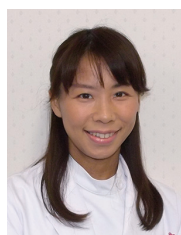


この度、新しく専門医の末席に加わらせていただくことになりました服部憲明と申します。大阪大学神経内科および関連病院等での臨床および研究活動の後、森之宮病院でリハビリテーションの研修をさせていただき、現在は、同院の回復期リハビリテーション病棟に専従医として勤務しております。

他の専門分野と比べても、チームワーク体制が広範で、より重要であるリハビリテーションにおいて、自分がどのような形で多職種とかかわりながら、患者さんにとって大事な、回復期という時期を過ごしてもらえるか、日々、自問自答しながら診療しております。専門医として新たな気持ちでリハビリテーションの臨床の研鑽を積んでいく所存でございます。今後とも、ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



田中 敦子 医療法人さくら会 さくら会病院



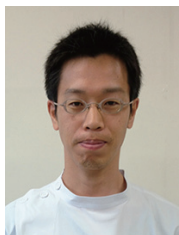
このたび、リハビリテーション専門医になりました、医療法人さくら会さくら会病院の田中敦子と申します。内科医として当院に平成19年に入職し、主に回復期病棟を担当することとなりました。当院は、脳外科、整形外科、内科を主とする急性期(71床)、亜急性期(16床)、回復期(60床)を有する病院で、回復期病棟では、主に脳血管疾患、運動器疾患を対象にリハビリを行っています。リハビリにより失った機能を再獲得し、元の日常生活に復帰される多くの患者さんを見て、その必要性、また重要性に気付き、専門的な見地から医療を行いたいと、リハビリ専門医となりました。今後は、地域リハビリ医療に精一杯貢献していきたいと思っております。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



石川 晴邦 兵庫県立リハビリテーション西播磨病院リハビリテーション科



このたびリハビリテーション専門医試験に合格できたことを大変嬉しく思っています。そしてご支援頂きました先生方に心より感謝申し上げます。恐縮ながら私自身のことを少し紹介させていただきますと、私は医師国家試験合格後、医者としては働き始めることはせず、米国のアリゾナ大学に入学、人文学部にて西洋古典学や芸術史を勉強するという他人は少し首を捻るような経歴があります。その時の学びが影響してか、現在リハビリテーションに携わる日々も、この患者さんの奥にはどのような物語が紡がれているのだろうか、何をもってして人間を人間とせしめるのか、これからの社会、世界はどこへ向かうのだろうかという思いの中に自分を見つめます。これからは芸術や環境と人との関わりについても見識を深め、人間という存在をより多面的に観る視点を育むと共に、より心身に優しく成熟した社会作りにも携わっていければと思っています。

**羽森 貫 大阪医科大学附属病院**

この度、リハビリテーション科専門医に加えて頂くことになりました羽森貫と申します。平成13年に大阪医科大学を卒業し、同年、同大学外科学講座胸部外科学教室へ入局いたしました。外科手術や急性期の循環器科診療を中心とした医療に携わって参りましたが、平成22年より同大学総合医学講座リハビリテーション医学教室で急性期リハビリテーションの診療をさせて頂いております。これまでに、佐浦隆一教授をはじめ、お世話になりました諸先生方のご指導にあたためて感謝の念を申し上げます。未だ、知識や技術も未熟だと痛感する毎日ですが、患者さまの生活の質の向上に少しでも貢献できるよう、今後更なる研鑽を積んで参る所存ですので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

**呉 雅美 笹生病院**

リハビリテーション科に転科して間もない私ですが、恵まれた環境のおかげで無事に合格することができました。心より感謝しております。これからも力を尽くしたいと思っております。転科して間もなく、高次脳機能障害や半側空間無視の概念を知りました。もと眼科であったのに、半側空間無視と半盲との違いを丁寧に教えていただきました。その後、リハビリテーションや高次脳機能障害に興味を持ち続けています。一人の患者さん、ご家族とともに障害や生活という点でかかわる全人的アプローチ、社会を見る・感じる視点が必要であることも、当科の広さと深さだと思います。ずっと新鮮さを感じていますが、本当の意味で実力をつみ発揮できるよう、これから経験を積んでまいりたいとおもいます。どうぞ、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

**北恵 詩穂里 大阪府立急性期総合医療センター**

このたび専門医の末席に加えていただきました、北恵と申します。もともと神経内科医として脳卒中を中心とした神経疾患の診療に携わってまいりました。「最初の2週間を過ぎた患者様はどうなっていくのだろう」という疑問が回復期の診療を志したきっかけです。回復期や慢性期の診療をするようになって、これまでの自分の中枢神経系への理解がいかに不十分であったかを痛感しております。現在もSCU医師として神経内科救急の診療を担当しているため、一日のうちでもリハ医と神経内科医としてそれぞれ別の考え方をしなければならぬ時間があり、両立に苦慮しております。いずれの領域でもまだまだ未熟者ですので、今後のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

当院は、脳卒中はもちろん神経筋疾患、脊髄損傷、高次脳機能障害、外傷、内部障害など急性期から慢性期までリハビリの全領域を経験できる研修施設です。お若い先生方の見学のご希望がございましたらお気軽にお申し付けください。

**飯野 莉和 篤友会リハビリテーションクリニック・坂本診療所**

この度、専門医の認定を頂きました飯野莉和(いいのりわ)と申します。篤友会関西リハビリテーション病院に5年間勤務し、現在は系列の診療所二箇所で維持期のリハビリテーションに携わっています。リハビリテーションに対しては、リハ科医師、他科の医療者、患者さんが各々別個のイメージを抱いており、その考えのずれの為に治療が進みにくいと感じる事もあります。私の中でも‘リハビリテーション’が指し示す範囲は日々どんどん拡大しているので、これからもリハビリテーションという言葉は生き物のように進化し続けるのだろーと思います。固定観念を覆すことは難しいかもしれませんが、少しでも理解を共有しあい、より良いリハビリテーションを作っていくためには、まずは自分自身が少しでも知識、技術を増やすように努力していかなーばと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

**大洞 佳代子 近畿大学医学部附属病院 リハビリテーション科**

この度リハビリテーション科専門医に加えて頂くことになりました、近畿大学医学部附属病院リハビリテーション科の大洞佳代子(おおぼらかよこ)と申します。平成20年に近畿大学医学部を卒業、同附病院にて初期研修を行った後、平成22年に近畿大学医学部附属病院リハビリテーション科へ入局いたしました。入局後は、京都桂病院や浜松市リハビリテーション病院にて研修し様々なことを勉強させて頂きました。

本年1月より近畿大学附属病院で勤務しており、現在は浜松市リハビリテーション病院にて学んだ経験を生かし、摂食嚥下障害を中心に診療させていただいております。まだまだ未熟者ではありますが、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



荒川 英樹 和歌山県立医科大学



この度リハビリテーション(リハ)科専門医の一員として認定をいただきました、荒川英樹と申します。平成10年に産業医科大学を卒業し同大学リハ科での研修を積んだ後、平成17年より和歌山県立医科大学リハ科の一員となりました。関連病院にて主に回復期～維持期リハを中心とした臨床経験を積ませていただくと共に、アメリカでの研究留学も経験させていただき、平成26年より大学勤務となりました。

和歌山県立医大では超急性期からのリハ医療を他診療科からの協力を得ながら積極的に行っており、毎朝、大学病院入院中のリハ施行患者約250名を分担し回診しております。リスク管理に十分に配慮しながら状態の不安定な患者、重症度の高い患者への積極的なリハ介入は、これまでの私の経験では得られなかった新たな刺激として大変有意義な毎日です。更に知識と経験を深め、リハ医学の発展に少しでも貢献できるよう頑張る所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

第37回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会 および専門医・認定臨床医生涯教育研修会開催にあたって

第37回リハ医学会近畿地方会学術集会 会長 須貝 文宣
(国家公務員共済組合連合会 大手前病院 神経内科)

平成26年9月20日(土)に第37回日本リハビリテーション医学会近畿地方会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会を国家公務員共済組合連合会・大手前病院(第1～3カンファレンス室)にて開催いたします。

今回の生涯教育研修会ではリハの対象領域がますます広がっている現状を鑑み、徳島大学大学院先端運動治療学特任教授後藤恵先生に「脳深部刺激術とボツリヌス治療におけるリハビリテーションの役割」、大阪大学大学院整形外科講師坂井孝

司先生に「動作制限のないTHAのために」、国立病院機構刀根山病院神経内科部長松村剛先生に「筋ジストロフィーのリハビリテーション」、というご演題でご講演いただく予定です。いずれのご講演も各分野における最先端の内容を含み、リハに関わる医師にとって有益な内容となることと思います。

また、一般演題も現在受け付け中ですが(7月29日締切)、奮ってご応募いただき活発で有意義な議論の場になることを願っております。

当院は大阪府庁・大阪城から至近で各方面からのアクセスが良く、是非多数の会員の先生方にご参加くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

第37回日本リハビリテーション医学会近畿地方会 ならびに専門医・認定臨床医生涯教育研修会

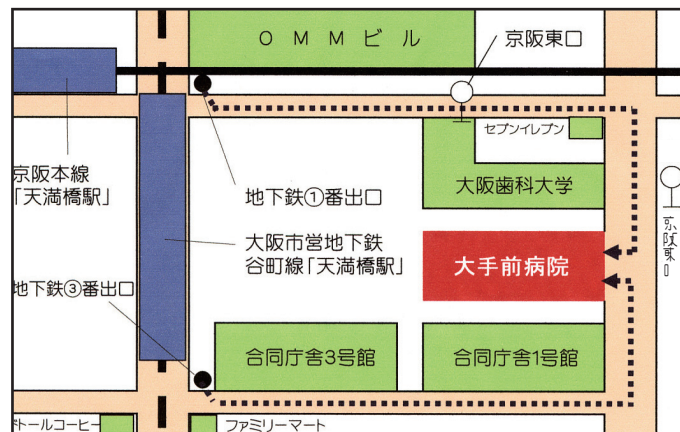
開催日時：2014年9月20(土) 12:00～18:30

会長：須貝 文宣 (国家公務員共済組合連合会 大手前病院 神経内科)

会場：国家公務員共済組合連合会大手前病院
第1～3カンファレンス室

〒540-0008 大阪市中央区大手前1-5-34 Tel 06-6941-0484

大阪市営地下鉄谷町線・京阪電車「天満橋」駅から徒歩5分、JR西日本東西線「大阪城北詰」駅から徒歩15分。本会用の駐車場はございませんので、できるだけ公共交通機関をご利用願います。



1) 一般演題(認定単位:10単位・筆頭演者はさらに年度末自己申請により1演題10単位)

演題申込要領：上記、地方会幹事：須貝宛にてメール(sugai1441@otemae.gr.jp)で演題名、演者名、400字以内の抄録を、お送りください。

受信確認の連絡を1週間以内にいたしますので、万一連絡がない場合には、地方会幹事まで電話連絡(Tel 06-6941-0484)をお願いいたします。

演題締切：2014年7月29日(火)

その他必要事項：発表形式がMac PCの方は、必ずご自身のPC、アダプターをお持ちください。Windowsの方は、PCでもUSBメモリーでも受付可能です。

2) 教育講演(認定単位30単位予定)

講演内容：1.「脳深部刺激術とボツリヌス治療におけるリハビリテーションの役割」

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部先端運動治療学講座 特任教授 後藤 恵 先生

2.「動作制限のないTHAのために」

大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学整形外科 講師 坂井 孝司 先生

3.「筋ジストロフィーのリハビリテーション」

国立病院機構刀根山病院神経内科 部長 松村 剛 先生

認定単位：1講演10単位 受講費：30単位一括3,000円(別途、参加費2,000円が必要)